# ブダペスト通信

盛田　常夫

2025 年 No. 21（6 月 30 日）

## オルバンの強硬姿勢がことごとく裏目に

## ― 大規模な Pride 行進が政府の規制を打ち破る

今年に入って、オルバン首相は Tisza 党の躍進に見られる野党の台頭にたいし、政治的な強硬姿勢で立ち向かおうとしているが、それらはことごとく裏目に出ている。

年初には「性的少数者の集会禁止」令を出し、保守層の支援を獲得し、野党を窮地に追い込むことを目指した。また、3 月 15 日の革命記念日には、反政府的言動を展開する知識人・学者・裁判官を「社会の蛆虫ども」と非難し、春の大掃除でこれを退治すると宣言した。それにともない、外国から支援を受ける反政府組織を取り締まる「ハンガリー版プーチン令」を国会に提出した。さらに、焦眉の課題でもない「ウクライナの EU 加盟反対」投票を実施し、国内外にアピールしようとした。また、科学アカデミーから人文系の 4 つの研究所を分離し、ELTE に移管することを決めた。オルバン首相やその顧問であるシュミット・マーリアの意見（科学アカデミーは人文系のスターリニストに支配されているという時代錯誤の認識）にもとづいて実行したものである。

これらすべての政策強硬はオルバン・ヴィクトルの焦りの現れであり、それが当事者たちの怒りを買い、オルバン政権離れを加速している。他方、Fidesz政権内部でも、強硬策の実行への慎重論が高まり、オルバン首相の性急な対応策を抑制する動きも見られる。

## 6月28日のプライド行進

ブダペスト市が主催する6月28日のPride行進について、欧州委員会はハンガリー政府にたいして、強硬措置を取らないことを求め、欧州議会議員やEU加盟国の大使館員がPride行進に参加することで、警察力による排除を防ごうとした。これにたいして、ピンテル内務大臣は首相に進言し、力による排除は行わず、顔認識ソフトを使って参加者を特定し、罰金を科すことを提案した。

罰金は6000-200,000Ftに設定されているが、実際に特定人物への罰金が科せられるかどうかは不透明である。Pride行進の後、監視カメラの取り外しが行われている（https://www.youtube.com/shorts/5ogvP5DCciM?feature=share）。

**Pride行進の経路に急遽取り付けられた監視カメラ**

6月28日のPride行進は、ハンガリーでは近年にない盛り上がりを見せ、およそ20万人が参加した。ラーコツィ通りからエリザベート橋へ向かう行進は、圧倒的な参加者で埋め尽くされた（https://www.facebook.com/watch/?v=1451558556021836）。

**ラーコツィ通りからエリザベート橋を埋め尽くす参加者**

これにたいして、Fidesz 別動隊の極右政党の Mi Hazánk（わが祖国）は Pride 対抗集会を開き、鎖橋を占拠したために、Pride 行進はエリザベート橋を渡ることになった。

警察は極右組織集会と Pride 行進との間に警官の壁を作り、不測の事態を避けることに務め、直接的な衝突はなかった。

**Mi Hazánk が主催した極右勢力の集会**

政府系メディアは、今回の Pride 行進を「オルバン首相が野党勢力を罠にかけた」と論評したが、予想以上の Pride の盛り上がりを前に、負け惜しみ的な言い訳に聞こえてしまう。

政府は Pride 参加者を特定して、罰金を科すかどうか検討している模様だ。行進参加者を罰することになれば、政府批判がさらに高まり、長期の裁判沙汰になることを覚悟しなければならず、政府の出方が注目される。

## 人文系研究所を ELTE に統合する措置

アカデミー創立 200 周年記念への参加を断念せざるを得なかったオルバン首相は、親戚付き合いをしている似非学者シュミット・マーリアの口を通して、アカデミーの人文系研究者を非難していたが、腹いせともとれる措置を講じた。科学アカデミーとの協議なしに、4 つの研究所（人文研究所、社会研究所、言語学研究所、経済・地域研究センター）を HUN-REN 組織（アカデミーに代わる研究所集合体）から切り離し、ELTE の管轄下に置くことを決定した。

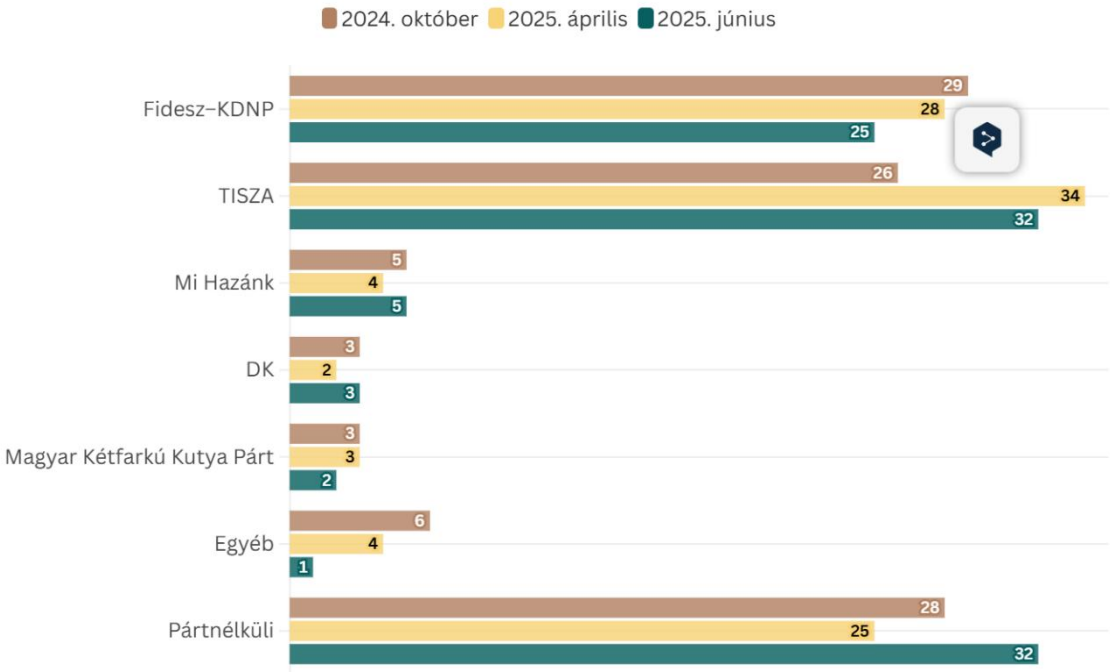
これにたいして、1200 名の研究者、4 つの研究所勤務員の 90%がこの措置に反対する意思を表明し、68 名の HUN-REN 研究所のリーダーが、オルバン首相宛に抗議の公開書簡を送付した（https://drive.google.com/file/d/1JSUeoew_BUxEZlUuHP8Qr_IPktv3X-8_/view）。

科学アカデミーは４つの研究所をアカデミーが引き取ることを提案しているが、政府（オルバン首相）は問答無用で、政府批判者が多い人文社会科学系の研究所を研究組織体から切り離すことで、自らに向けられた批判に回答することにした。ここでも、オルバン・ヴィクトルは批判者への執念深い攻撃的姿勢を明確にしている。

## 6月の世論調査結果—Tisza がさらにリードを広げる

21 Research Center (21 Kutatóközpont、https://21kutatokozpont.hu/index2.html) の世論調査によれば、マジャル・ピーテル率いる Tisza 党支持率は Fidesz 支持率をさらに上回り、その差が広がっている。有権者全体でみると Tisza は Fidesz を 6%上回り、政党支持者に限定すれば11%上回り、確実に投票すると答えた人々に限定すれば18%リードしているという結果が得られた。

Fidesz 支持者の絶対数は 200 万が上限だが、Tisza 党はそれを 50 万上回っているという調査結果が示されている。




21 Research Center が 6 月 24-27 日に 1000 名の有権者に行った調査結果

Fidesz の基礎票は200 万と推定されるが、その内の岩盤的支持者層は100 万と推定される。政府が巨額のお金をかけて実施した「ウクライナの EU 加盟反対投票」では、最初の１か月に集まった数（およそ 100 万）が岩盤支持層と考えられる。残りの 100

万票は強固な支持層ではなく、状況によって棄権あるいは別の政党を選択する稼働的な層だと考えられる。

これまでのハンガリーの総選挙をみると、ジュルチャーニ率いる社会党が 2010 年の総選挙で 100 万票を失ったことを考えれば、流動的に動く 100-150 万票が政権樹立を左右すると考えられる。

「奢るオルバン Fidesz、久しからず」という歴史の教訓が、ハンガリーにも貫徹しつつある。